

# 岐阜県支部だより

- 1 巻頭言
- 2 支部研究会報告
- 3 群馬大会報告
- 4 事務局より

第13号 平成26年9月30日 発行



## 巻頭言 「初心に戻るために」

岐阜県支部 理事長

大竹 恵子

この6月の岐阜県支部の総会において、大役を賜りました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年度は、岐阜県での全国大会を、成功裏に終えられたことは、下野前理事長のリーダーシップの下、支部会員の皆様の心を一つにした真摯な取組の成果であったと誇りに思います。改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

この節目のスタートに当たり、今こそ岐阜県支部の今後の方向性を考えてみたいものです。「教育相談」という言葉がまだ小中学校に馴染みがなかった頃に、中学校にも相談室を作りたいと申し出た私に、なぜ必要なのか、どのような教育的な成果が出せるのかデータで示せと学校長に迫られました。先進的な高校を訪問し教えを請い、多くの先達者の本を読み、「すべての生徒がよりよい自分作りができること、何より安心して登校できることを支える場でありたい」と結論付けました。

あれから、25年たち、すべての学校に教育相談主任が位置付き、いじめ防止基本方針が立てられ、教師だけで悩むことのない専門家との連携もでき、環境は整備されてきました。しかし、不登校生徒はまたもや増加傾向にあり、自己肯定感の低下は変わりません。

何が足りないのでしょうか。整えられた体制は、形ばかりになってはいないだろうか。今の職員の態勢でよいとあきらめてはいないだろうか。専門家と連携しているからと任せきりにしてはいないだろうか。教育相談に関わる一人として、精一杯学ぶ姿勢をもっているだろうか。一人、二人不登校の児童生徒がいても仕方ないと思っていない

だろうか。児童生徒一人一人の生き方に真剣に関わっているだろうか……

社会の変化と共に、子供や保護者の考え方は多少変わるかもしれませんが、よりよく生きたいという願いの本質は変わってはいないと思います。もう一度、教育相談が必要とされた初心に戻って、次の2点を大切にしたいと考えています。

「個に力を付け、集団を高める」

教員になって以来、毎年、経営案に記した言葉です。学級や学校は、子供一人一人が確実に生き抜く力を付けるべき場所であること、個性豊かな個が協働してよりよい集団に高め合っていくのが学校であること。教育相談の存在意義はここにあると考えています。

気になる個に支援すべきことは当然ですが、学級集団等への人間関係のさらなる促進を図ることも大きな対応の一つです。今一度、現況を振り返り、自分の職務内容で今すぐできること、今後計画的に行うこと等を整理したいものです。

「日常生活の中でこそ、教育相談を」

すべての子供を対象にした「一次的な援助サービス」(石隈利紀 1999)こそ、重要です。毎時間の授業の中で、すべての子供が「分かった、できた」と言えるために、どのような配慮をいつするべきでしょう。円滑な人間関係を保つために、できる支援は何があるのでしょうか。一人一人の子供や学級の状況の的確なアセスメントによる援助が必要です。毎日の生活の中にこそ必要なのです。

本会員一人一人が真摯に学び、研修会で学び合い、さらに高まり合いましょう。

## ☆ 支部研究会報告 ☆

### ◇定期総会（第24回総会）・第1回研修会

開催日：平成26年6月14日（土）

会場：朝日大学（岐阜県瑞穂市）

#### 1. 定期総会

今年度の支部役員、25年度事業及び会計報告、26年度年間事業計画、予算案などが審議されました。また、支部規約については、全国大会開催のために2名としていた副理事長を1名に戻すという改正案が提出され、承認されました。（総会資料につきましては、支部会員全員に送付しました。届いていない会員の方がみえましたら事務局までご連絡ください。）

#### 2. 記念講演

##### 『情報社会の理解と情報モラルの指導』

講師：岐阜聖徳学園大学教育学部

教授 石原 一彦 先生

記念講演では、まず情報社会について、6つのキーワード、「量、速さ、密度」「複製の容易さ」「可塑性」「匿名性」「双方向性」「依存性」の視点から具体例を交えながら大変分かりやすくご説明いただきました。それを踏まえた上で、さらに具体的に、スマホやソーシャルメディアについての危険性に触れ、危険から身を守るための知識や問題が発生した時の対応について教えていただきました。



このような社会に生きる子どもたちをどのように育てていくべきか…。「情報倫理」として心を磨くとともに、「情報安全」として知恵を磨くという両面からのアプローチが必要

であり、授業の中で、これらの実践力を育成するために「考えさせる」「悩ませる」「葛藤させる」ことが大切であると、情報モラルの指導の在り方についてご教示いただきました。

（文責：大坪一才恵）

### ◇夏の教育相談研修会◇

開催日：平成26年8月23日（土）

会場：岐阜女子大学（岐阜）

##### 『互いに認め合い高め合う学級づくり』

～Q-Uを活用して～

講師 高知大学附属教育実践総合センター

准教授 鹿嶋 真弓先生

近年多発する不登校やいじめによる問題行動。Q-Uを活用することで、問題を未然に防ぎ、互いに認め合う学級づくりをしようと、教師の実践的指導力向上のためのノウハウを鹿嶋先生からたくさんご示唆いただきました。

講義の冒頭では、「不登校の兆候や、隠れたいじめの早期発見」という、hyper-QUの作成者の思いにふれ、結果をどう見るか、読み取る際に注意することは何かなど、事例や分析データをもとに丁寧にお話をしていただきました。特に、不登校予備軍発見のための4つのポイントでは、①満足群にいる生徒の中の予備軍②人間関係に不安をもっている予備軍③学習困難による予備軍④家庭環境要因による予備軍など、座標の位置やグラフの形だけでなくローデータからの読み取り不足は、日頃教師が陥りやすい落とし穴だにご指摘を受けました。また、「扉を開けるための方法」や「漢字をイメージする」ワークでは、グループ発表の度に会場から「あーっ。」という感嘆とも納得ともいわれる声がたくさん上がりました。「脳は言葉に敏感に反応します。“あーっ”と思わず声が出ましたね。これは会場の皆さんがこうして出会い、互いのよさを実感したから出た言葉ですよ。」のお話に、思わず会場から“あーっ”の納得の声。他者に興味をもつことから始め、互いにすばらしいと思える関係づくりをすることこそが、『互いに高め合う学級』の第一歩であると、受講者全員が実感しました。

『アンバランスは要チェック』『トラブルはラッキーチャンス』『DO(実行)がなければ意味がない』『人の数だけ方法がある』など、“みんなってすごいね”、“自分ってすごいね”と、まるで魔法をかけられたように、ほんわかした気持ちで研修を終えました。鹿嶋先生、本当にありがとうございました。（文責：佐藤礼子）

日本学校教育相談学会主催

第26回総会・研究大会（群馬大会）

夏季ワークショップ

開催日：平成26年8月8日（金）～10日（日）

会場：群馬県（生涯学習センター）



### ◎主な日程

8月8日（金）ワークショップ（7コース）

全国支部代表者会

支部代表者懇親会

8月9日（土）総会、記念講演、シンポジウム

研究・事例発表、自主シンポジウム

ポスター発表、特別講演、懇親会

8月10日（日）研究・事例発表、ポスター発表

学会賞・小泉英二賞受賞者講演

ラウンドテーブル

### ◎報告1 夏季ワークショップ（8日）

群馬大学 岩瀧大樹先生「認知行動療法のエッセンス」  
～学校教育相談に活かす理論と技術～に参加して

認知行動療法（CBT）とは、「自分の考えを見直す」「気分がどのくらい変化していくかをモニターすること。メンタルヘルスを維持するために、コーピングの達人になる。コーピングとは、自分助けのことで外在化（考えていることを外に出す、イメージ）することが認知行動の一つと聞きました。そこでコーピングを外在化してみたところ、自分では20くらい出すことができたので、たくさん外在化できたと思っていました。でも、コーピングの達人になるためには、コーピングの活用上手になることがポイントであることや目標100をめざして積極的に使いこなし増やしていくことを意識することなど、自分のメンタルヘルスマンagementに役立つと聞き、参考になりました。

また、自分の考え方のクセを掴むことも認知行動には大事なことです。質問紙にチェックし6つのクセがどのくらいあるのかを見ていくと、6つのクセの中で「べき思考」と「深読み」が高く、過去から現在に至るまであれこれ思い悩んでしまうことやきつとそうにちがいないと決め付けてしまう傾向があるということも再認識できました。認知行動療法の技法を学校教育相談に活かし進めていくためには、まずは、自分を客観的に把握しセルフケア（コーピング）をできるようにしていくことが認知行動のアプローチにつながることを学ぶことができました。

### ◎報告2 記念講演（9日）

「未来を展望する学校教育相談」

東京聖栄大学教授 有村久春先生

不安や悩み（不一致）を感じている時、カウンセリング（受容、共感、方向性）をすることで安心や自信（一致）がもてるようになり、「こころ」の健康につながることやカール・ロジャースのカウンセリング理論から教育におけるカウンセリングの必要性について

でのお話を聞くことができました。

### ◎報告3 実践事例発表（9日）

①岐阜大学教育学部附属小学校 小笠原 淳先生

「望ましい人間関係を追求する児童の育成」

望ましい人間関係を追求するために育てたい力を「社会的スキル」と定義し、発達段階に応じて身に付けるべき社会的スキルを明らかにし、育てる3つの場での指導計画作成により、居心地のよさを感じる児童が増加したという実践発表をされました。

②神戸松蔭女子学院大 根津隆男先生

「子ども達の自尊感情を高める学校経営を目指して」

社会性を育てるスキル教育を進めることで、規範意識が育ち信頼のある人間関係が育ち、そして自尊感情が高まると定義し実践発表をされました。

### ◎報告4 特別講演（9日）

「いじめ問題解決への視点」

東京福祉大学・大学院教授 手島茂樹先生

「常識」という圧力でうまく人間関係ができていた時代から個を主張するあまり協調していく姿勢が期待できない時代になっています。そのため人間関係を築くことが苦手であり、個性尊重、平等、強く糾弾（言った者勝ち）が更に強調されいじめにつながっていくことや同調行動（違う意見は排除）もいじめにつながると、それぞれに具体例を出されたことにより、分かりやすくお話を聞くことができました。

### ◎報告5 小泉英二記念賞受賞者講演（10日）

「私を育てた子どもたち」

美濃市立美濃小学校長 古田信宏先生

子どもとの関わりからどのように児童理解していくのかを具体的に事例を通してお話されました。

また、ピアジェの認知発達論や人間観察が児童理解につながることや児童の状態に応じた温かく厳しい対応が子どもを変えていくことなど、古田先生のお人柄（ポジティブ）が満載されたお話で、これから子どもと関わっていく中で多くのことを学ぶことができました。そして、集団に適應する力は学力とは別であり、自己理解、他者理解、集団理解にはステップがあること。（集団適應過程のステップ表）また、望ましい人間関係を追求する思考過程の状態像がステップごとにまとめられた資料を参考にしながら、今後さらに児童理解を深めたいと思いました。



（文責：曾我部恵美）

# 事務局より

## 夏の研修会も無事に終了

岐阜女子大学で行われた8月の研修会も50名ほどの参加があり、無事に終わることができました。今回は、高知大学の鹿嶋真弓先生をお迎えして、Q-UやSGE（構成的グループ・エンカウンター）を活用した学級集団づくりの進め方について学びました。

SGEといえば、かつて本支部では毎年のように夏の研修会で取り組んできたこともあり、会場でワークに取り組む参加している方々の姿を見て懐かしく感じました。しかし、参加した方々の意見の中には「初めて経験した」という声もあり、近年はあまり取り上げられていないのかと不思議な



感覚にもなりました。校内研修ではあまり取り上げられなくなったということでしょうか。必要がなくなったということでしょうか。

予防・開発に目を向けた教育相談の必要性が大きく唱えられている今、やはり学級集団づくりに目を向けるべきではないでしょうか。誰にでも居場所があり、仲間同士の絆ができていく学級集団は安心感があります。そのような学級になるように、学級担任をはじめ多くの教師や学校教育に携わる者は、努力していく必要があります。これは、小学校でも中学校でも、高等学校でも同じことです。そのことに注目し、地道に取り組んでいる学校こそ、「楽しい学校」「学ぶ意欲のある学校」「活力のある学校」を実現させているのではないのでしょうか。

鹿嶋先生の講義は、そのようなことを再認識させていただける場となりました。途中で紹介された小学校実践、そしてVTR視聴できた中学校実践は、Q-Uを用いながら、自分の学級を冷静にアセスメントし、地道に実践を積み重ねている取組

でした。岐阜県では、Q-Uによるアセスメントをしている学校が多いと言われています。今回学んだことが広がることを期待したいと思います。

## 10月の研修会は東濃で

本支部は、「岐阜県支部」と名乗りながら、なかなか全県的に参加いただいているとは言いがたい状況にあります。研修会会場が岐阜市中心となっていることから、飛騨地区や東濃地区など岐阜市から遠い地域の皆さんの参加は少ないのです。

そこで、今年度より、5回ある研修会のうち、1回は、東濃地区や飛騨地区など岐阜市から離れた地域での研修会を開催することにしました。今年度は東濃地区で行います。

- ・日時：平成26年10月25日（土）  
13：30～16：00
- ・会場：恵那市 中コミュニティセンター  
岐阜県恵那市長島町正家1丁目3-21  
(TEL：0573-26-1808)

詳しくは、また後日お知らせしますが、講演を聴き、事例研究会も行います。是非、多くの皆様の参加をお待ちしております。



## 事例発表してみませんか

今年度の活動として、今後2回（12月、2月）の研修会があります。どちらも「事例研究会」を計画しています。会員の皆様の中で、「ちょっと相談してみたいな」「詳しく教えてほしいな」という事例がありましたら、気軽に事務局まで問い合わせをしてください。

（文責：事務局長 木村 正男）

日本学校教育相談学会岐阜県支部会報第13号

2014年（平成26年）9月30日発行

発行：日本学校教育相談学会岐阜県支部

編集：日本学校教育相談学会岐阜県支部広報委員会

ホームページ：<http://www1.ocn.ne.jp/~sodangif/>

E-mail：[sodan-gifu@plum.ocn.ne.jp](mailto:sodan-gifu@plum.ocn.ne.jp)